

「個人」「市民」「団体」「地域」 あらゆるものの自立と自律を支援する 市民ジリツ支援NPO



プロフィール

田中 茂 (たなか しげる)

1956年生まれ。2002年、NPO法人シミンズ加古川（現シミンズシーズ）設立。かがわ市民団体連絡協議会の設立を皮切りに、東播磨生活創造センター「かこむ」を指定管理者として運営する中で、新しいタイプの公共施設のあり方を提案、実践。明石コミュニティ創造協会の事務局を担い、地縁組織へのコミットメントを深めるなど、新しい「市民社会」の創造に挑み続けている。

たなか しげる
理事長 **田中 茂** さん

NPO法人 シミンズシーズ

シミンズシーズが大切にする 5つの力

- 受け入れ力：多様なタネを受け止め、受け容れよう
- 巻き込み力：巻き込んで自分ごとにならう
- 共感力：笑顔で想いに共感しよう
- 高まり力：成長し続ける私たちでいよう
- 創造力：これからの時代をつくる仕事をしよう



▲シミンズシーズのロゴマーク。タネからジリツした市民へ成長するまでを表しています。

重要な中間支援の機能だと考えます。他にも、人と人、団体と団体などをつないでいくネットワーク機能や、資金的な支援という意味で、資金を集めたり、助成をしたりする機能も重要だと思っています。

——市民活動をしようとする人にとって大切なことは？

当法人のビジョンは、「誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ」です。そして、「ミッションは、「シミンズの自立と自律を支援する」というものです。このことからお分かりいただけるかと

思います。が、「市民活動」をあまり狭義にとらえていません。むしろものすごく広義にとらえています。従って、狭義の意味で使われることの多いテーマ型の活動と言うよりは、地縁型の活動も含めた「社会全体」といったイメージの方が近いのかなと思います。経済が減速し、税収の減の中で、これまでと同じような行政サービスを望むことは難しくなりました。行政サービスが小さくなる分を社会全体で補うしくみが必要だと思うのです。まちづくりや社会のしくみづくりを行政だけに頼るのではなく、市民が社会参画をしながら行政と協働して

聞く

Vol.19

シリーズ
listen to....

「シミンズ加古川」を経て「シミンズシーズ」へ

——「シミンズ加古川」を立ち上げたきっかけは？

阪神淡路大震災の時、多くのボランティアに支えられましたが、このボランティアの方々をコーディネートする役割の必要性を感じたことと、音楽活動を通じて支援金を集めている友人の姿を見て、これからは、さまざまな活動をする個人や団体をサポートする機能が必要だと思ったことがきっかけです。

後で、このような活動をする組織を中間支援団体ということを知ることになりましたが、周囲にもその必要性を感じている人は多かったですね。

一方、具体的な活動として、「子ども心のケア」をするために、精神科医や臨床心理士などの活動拠点として、「ハートネットワークセンター」を立ち上げ、4年間活動しました。その後、兵庫でのノウハウを活かし、台湾大震災での「子ども心のケア」活動を経て、2002年NPO法人シミンズ加古川を立ち上げました。

——「シミンズシーズ」に移行した理由は？

法人設立から10年が経過し、時代も社会も大きく変わりました。そのような中で、改めて法人のミッションやビジョンを考え直し、その上で、ロゴマークやイメージカラーをつくらうとブランドینگ戦略を練り直しました。私たちの想いをもっと伝わりやすくするには、どのような表現がよいのか

つくっていく、そんなイメージを持っています。「パブリックからソーシャルへ」、そんな時代に入っていると思います。

このことを踏まえて、市民活動をしようとする人、すなわち全ての市民は、社会の変化を機敏に感じながら、単に受益者としてではなく、自らがサービス提供者として行政と協働して社会を支える役割を果たすことができるよう「ジリツ」していくことが大切だと思います。

「たのしいのタネ」を育てる

——これからのシミンズシーズが目指すものは？

今回の法人名変更に伴い、定款の目的や事業も変えました。目的は、「市民」の自立と自律を『楽しく促し、支援すること』を通じて、「市民」が様々な課題と自らの意志で向き合い考え、行動するような市民社会を創造すること」ということにしました。中間支援団体としての支援対象が広義であることは、この目的からもお分かり頂けると思います。

また、NPO法人に限って話をすると、兵庫県では、約1,900を超えるNPO法人が活動していて、その内容も多様化しています。ただ、NPO

中間支援組織とは、市民活動とは

——中間支援組織としての役割とは？

2012年明石市に「一般財団法人明石コミュニティ創造協会」が作られ、そこを拠点に自治会や町内会などの地縁型組織へコミットさせていたことが増えました。その中で見えてきたものは、市民と行政の関係が、必ずしも良好だとは言えない状況です。そこに、我々のような中間支援組織の存在が必要になるのかなと思いますし、「よそ者」の視点も重要かなとも思います。行政も市民も、お互いの足りないところを補い合い、協働しながら課題解決を図らなければならぬ時代が来ています。しかし、このような協働を実現するところにはまだ、いたっていませんし、相互のコミュニケーションが不足しているのだと思います。

中間支援って、どこどここの中間なのか？って、よく聞かれます。行政と市民の中間、個人と個人の中間、団体と団体の中間、個人と団体の中間などなど、いわゆるコーディネートは非常に

先進県と言われてきた兵庫が、果たしてそうなのかなという疑問も抱きます。

全国では、時代に適応し、社会課題に果敢に取り組みクリエイティブなNPO法人が、どんどん出てきています。新しい「市民社会」をつくっていきたいと言っ想いは、揺るぎのないものですが、自分たちの活動が、時代適応しているのか、陳腐化していないか、古くさくないか、おしゃれか、クリエイティブか、楽しいか、市民とともにあるかなどなど、常に成長を続けるシミンズシーズでありたいと思っています。

NPO法人シミンズシーズって？

「市民」の自立と自律を『楽しく促し、支援すること』を通じて、「市民」が様々な課題と自らの意志で向き合い、考え、行動するような市民社会を創造することを目的としたNPO団体。2001年「シーズ加古川」として発足、2012年10月に「シミンズシーズ」と名称を変え、幅広い市民活動に取り組んでいる。

